第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町村名	浦臼町

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成

第８期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度（年度末実績）		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	広域連合内において、要介護認定率が高い状況が続いている。高齢者の筋力低下予防、閉じこもり予防を行い、少しでも長く自宅での自立した生活につなげる。	高齢者の基礎能力向上に向けた貯筋教室を継続します。	教室を週1回開催する	貯筋教室を週1回開催した。新型コロナ感染予防のため人数制限を行い、2グループに分けて午前、午後で実施した。吹雪で中止した以外は予定とおり実施した。新型コロナ感染予防により他の集まりが休止となり、参加できる場が少ないため、定期的に参加できる貴重な場となっている。	◎	人数制限を行っているため、住民には広く周知ができていない。参加希望があった際に、現状の参加状況をふまえて調整を行っている。 R4年度より、参加ポイントの導入、屋外での歩行等を新たに盛り込み、利用者の参加率を高めていく。
①自立支援・介護予防・重度化防止	一般介護予防事業に参加するには移動手段の問題で難しい、ディサービスの利用までは必要のない対象に安価、短時間、送迎付きの通所型サービスを提供し、要介護状態への移行を予防する。	認知症予防、進行予防、閉じこもり予防のための通所型サービスAを継続します。	通所型サービスAを週1回開催する	通所型サービスAを週1回開催した。新型コロナ感染予防、会場の広さの関係で2グループに分けて、1つのグループを隔週で実施した。	○	1つのグループを隔週で実施しているため、利用者の用事等が重なり1回休むと次の利用まで間隔が空いてしまう。人数制限のため新たな対象への勧奨ができていない。 R4年度は新たな対象の掘り起こし、事業勧奨を実施していく。
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人暮らし、高齢者世帯が増えてきており、地域で見守りや支援が必要なケースも増加している。関係機関で情報を共有し、見守り体制や関係機関での役割分担、一貫した支援が必要となっている。	保健、医療、福祉等の関係者間で定期的に個別ケース検討会議を開催し、ケース支援について話合いを行います。	個別ケース検討会議を月1回開催する	個別ケース検討会議を月1回開催した。各関係機関で関わっているケースで共有が必要な場合や支援に困難を感じているケースについて、支援方法や関係機関での役割分担等について話合いを行った。	○	個別ケース検討会議以外でも地域で気になるケースがいる場合には、民協や社協より包括に情報や相談が入っている。ケース状況により、認知症初期集中支援チームでの検討を実施する。個別ケース検討会議にて地域での課題となる内容があった場合には、地域ケア会議での検討を実施する。
①自立支援・介護予防・重度化防止	少子高齢化が進み、地域住民が住み慣れた地域での生活を希望されていても難しくなってきている状況がある。地域の課題を明らかにして、課題解決や新しい社会資源が必要となってきている。	生活支援コーディネーターとの連携や協議体、個別ケース検討会議により表出された町の課題について、地域ケア会議で話し合いを行い、課題解決策や必要なサービス等の創出を行っていきます。	地域ケア会議を年2回以上開催する	協議体会議は年2回開催した。高齢者の移動手段、買い物、除雪、頼れる人が近くにいない等の課題。地域サロンを活用して地域住民と小・中学生との交流の場づくり等についての話題が出ている。地域ケア会議は1回開催した。移動手段、在宅医療、買い物、ゴミ出し等についての課題が話し合われたが、良い解決方法までには至っていない。	△	会議にて地域の課題について話題が出るが、課題解決や新たなサービス等の創出までには至っていない現状がある。 R4年度は、提起された課題をより掘り下げて、町へ提言し解決へ向けた資源開発を進めていく。
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢化率が45%を超え、認知症の一人暮らしのケースも増えている。地域で見守りや必要な支援を行いながら、安全に少しでも長く、自宅での生活が続けられるよう支援が必要。	包括支援センターの相談窓口や訪問等で対応が難しいケースについては、認知症等初期集中支援チームにより支援を行います。	認知症等初期集中支援チーム員会議を年4回以上開催する	チーム員会議を年3回開催した。4回開催予定であったが、うち1回がチーム員がコロナ濃厚接触者と接触し、会議を延期し、その後のチーム員の日程調整がつかなかった。包括の総合相談や個別ケース検討会議にて、対応が難しいケースについて検討を行っている。認知症ケースに限らず、精神や知的等で支援が難しいケースについての検討も行った。	○	初期集中支援チームで関わっていても、医療や介護サービスになかなか結びつけるのが難しい場合があり、支援経過が長くなっているケースもいる。その場合は、家族、関係機関と見守り体制を作り、必要時連絡を取り合うようにしている。

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町村名	空知中部広域連合

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成

第８期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度（年度末実績）		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
②給付適正化	介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要とするサービスを、事業者が適切に提供できるようにするため、北海道では「第５期介護給付適正化計画」を策定し、保険者と一体となって取り組む方針としており、当連合としても重点事項として位置付けられている５項目について実施していく。	認定調査状況の適正化	調査票全件点検の実施	調査票全件である1，343件の点検を実施し、テキストに基づき、不整合がないか確認し、整合性のある認定調査となるよう認定調査員への指導を行った。	◎	調査事項と特記事項の整合性が図られていない調査票が見受けられることから、今後も認定調査の平準化をはかるため、調査員に対する指導を継続していく。
②給付適正化		ケアプランの点検	隔年訪問実施	5事業所計15件について、自立支援に資する適切なケアプランであるか等に着目し、ケアプラン点検を行った。	◎	利用者の自立支援に資する適切なプランであるか等に着目し実施しており、今後も継続していく。
②給付適正化		住宅改修及び福祉用具購入の点検	申請書類の全件点検、必要に応じた現地確認の実施	住宅改修及び福祉用具購入の申請時に全件点検を行い、住宅改修については事後訪問調査を行った。	◎	不適合な改修の申請の場合は、申請者やケアマネージャーに制度を説明し理解を図っており、今後も継続していく。
②給付適正化		医療情報との突合及び縦覧点検	毎月点検実施	国保連合会に委託し、帳票をもとに点検実施した。	◎	国保連合会への委託と国保連合会帳票を使用した点検を実施しており、今後も継続していく。
②給付適正化		介護給付費通知	年1回以上の通知の実施	年1回（8月）に全件通知を行った。	◎	計画通り実施しており、今後も継続していく。